

## 平成24年度第1回墨田区図書館運営協議会会議録

1 日時 平成24年7月21日(土曜日)  
午前10時～午後0時

2 場所 墨田区役所11階 教育委員会室

### 3 出席者

会 長	永田 治樹	(筑波大学名誉教授)
副 会 長	河西 由美子	(玉川大学准教授)
委 員	小暮 周平	(墨田区立菊川小学校長)
委 員	西村 均	(墨田区立鐘淵中学校長)
委 員	金子 キク子	(図書館ボランティア「くさぶえ」)
委 員	永井 敬子	(図書館ボランティア「おはなしポット」)
委 員	小柳 裕基	(公募区民委員)
委 員	荘司 美幸	(公募区民委員)

欠席委員	小田垣 宏和	(新図書館プロジェクトリーダー)
	小野内 常子	(新図書館プロジェクトリーダー)

### 4 議事

- (1) 会長及び副会長の選出
- (2) 平成23年度図書館事業の報告
- (3) 統合図書館整備事業の報告
- (4) その他

### 5 会議録

#### 議事第1

##### 会長及び副会長の選出

(墨田区図書館運営協議会要綱及び墨田区図書館運営協議会運営要領の規定に基づき、委員中の指名推選により、会長に永田治樹氏、副会長に河西由美子氏が選出される。)

#### 議事第2

##### 平成23年度図書館事業の報告

永田会長 あずま図書館長に説明をお願いしたい。

(あずま図書館長説明)

永田会長 図書館予算は、図書館に配分されるものと、他の課の所属の予算があるが、グラフを見ると、図書館費が急激に落ちているが、他の課はそれほど変化がない。これはどういうことか。

事務局 コミュニティ会館については、予算が図書館の予算と比べてそれほど高くないので、あまり変化がないということである。

永田会長 先ほど、統合新図書館へ移管する、あずま図書館と寺島図書館の資料が約36万点とあったが、どのような資料となっているのか。

事務局 古い資料が多い。活用されない資料を所蔵し続けることは困難である。

永田会長 入れ替えを少なくしているということか。

事務局 以前に比べ、新規資料の購入数が少なくなっているため、積極的に除籍できないという現状がある。しかし、このところ、統合に向けてかなり精力的に除籍を行っており、大分減ってきている。

河西委員 図書館の利用状況等を見ると、資料数にしても利用の状況にしても、コミュニティ会館図書室の占める割合が大きくなっている。一方、委託等で、専任の区の職員がいないという実態がある。このあたりをどのように考えているか。

事務局 コミュニティ会館図書室も、実際にはかなりの蔵書数があり、23区の図書館と比べても中規模ほどの施設になると思う。そして、業務的にも、図書館と全く同じである。比較的行きやすい場所にあり、また、児童館を併設しているので、お子さんの利用が多いということもある。

河西委員 統合新図書館ができると、図書館数自体はひとつ少なくなる。その中で、ネットワーク化なり、これまでの図書館にとっての恩恵には何かあるのか。そこを考えていかなければいけないと思う。

永井委員 寺島図書館あずま図書館の統合のときに問題になったと思うが、予約ができて、受取りに行かなければならない。今では、見守り隊等で、お年寄りが町内会に集まったりしている。これからは、個人で受取りに行かなくてはならないのではなく、例えばコンビニ等で受取れるとか、もっと手軽に受取れるような仕組みが必要になってくると思うが、何か考えはあるか。

事務局 区全体での施設計画があり、難しいところである。あとは、何らかの形でお届けするという手段もある。それについては、プライバシー保護とコストの問題がある。コストの面では、例えば、受益者の負担であれば実行できるかと思う。また、ボランティアの方に運んでいただくという考えもあるが、読んでいる本が分かってしまうという問題がある。その辺をご了解の上でということであれば、可能かと思う。

永井委員 子どもでも、読み聞かせをして、図書館にあるから、ではいけない。では、学校図書室にあるかということ、学校も予算が限られていることと、学習用が多いので、いわゆる面白い本というのはなかなか置けない。結局、最初は興味を持つが、

すぐに忘れてしまう。特に3・4年生は。そして、本人が選ぶとなると何を選んでいいかわからない。コストの問題があるのは承知しているが、子どもが借りやすくなるシステムができないか。

事務局 葛飾区には学校併設図書室がある。それから、台東区もオレンジ図書館などあって、学校内に地域館を作っている。費用対効果を考えると、区民全体のニーズは多岐にわたっており、図書館だけ予算をかけるということは難しい。先ほどコンビニでという話があったが、システムを上手く利用して、既存の施設でなんとかすることができればと思っている。

永田会長 現在墨田区の図書館は学校図書館も含めてネットワークができていて、所在が簡単にわかる。そして、館の間で本を運ぶというシステムまではできている。その先も考えていただきたい。

小柳委員 利用統計等、色々な資料があるが、比較材料がないので、これが高いのか低いのか分からない。指標にしても、対比となるものと比べ、良いところは良い、悪いところは悪いとして分析をして対策をするのが一般的な考え方である。

事務局 この資料では時系列的な変化しかわからない。準備不足であり、申し訳ない。後日その辺についてお示ししたい。今ここで申し上げられるのは、資料費予算については、23区の中でも下位にあるということである。

永田会長 それは人口比か。

事務局 人口一人当たりの予算である。貸出総数についても、23区中でもかなり低く、最近では上がってきていたが、一昨年をピークに下がり始めている。

永田会長 その辺について、我々で認識しておいたほうが良いので、いくつかの尺度での指標を後日お示し願いたい。

小柳委員 隣接区、城東地区が一番分かりやすいと思う。あと、低い理由について、墨田区としてどう考えているか。蔵書が減っている、入れ替えが少ない等の理由の外に、何かあれば示していただきたい。

事務局 予算が少ないというのもある。あと、利用者の借りたい本と、こちらが用意している本が上手くマッチングしていないのかもしれない。また、人気本については、最後に予約した方が借りるのは2、3年後という状況である。今人気本については、全館合計で最大16冊まで買っているが、リクエストに応えきれず、昨年からは、人気本をお持ちの方で、もう読んでいないという方に、図書館に寄贈してもらえるように呼びかけている。貸出期間が3週間と長いことも一因である。これにより、特に人気本の回転が遅くなっている。予約をいただいて、貸出の用意ができたときから返却していただくまで、一人の方が最大4週間お持ちになる。そういう意味でも回転率は下がっている。さらに、お子さんの数自体が減っているということもあるが、お子さんの利用が昔と比べてかなり落ちている。絵本とかはたくさん借りられて、すぐに返していただくので、お子さんの利用の多少が大きく影響する。駅の近くに図書館がないことも一因である。

小柳委員 貸出期間はなぜ3週間なのか。ツタヤ等での貸出期間は1週間となっていて、本当に読みたければ、たいてい皆さん1週間で読み終わる。それをあえて3週間としているのはなぜか。

事務局 1回に20冊まで借りられるので、1週間では全て読みきれないだろうということもあるが、確かに、明白な根拠があって3週間としているわけではなく、過去の積み重ねで設定している。他区では2週間となっているところが多いが、墨田区では、借りた人の便宜を重視した結果、3週間としている。ただ、視聴覚資料に関しては1週間としている。

### 議事第3

#### 統合新図書館整備事業の報告

永田会長 あずま図書館長に説明をお願いしたい。

(あずま図書館長が説明する)

永田会長 運営方針について説明があったが、次回以降も新しい図書館をどのように運用していくかについて議論することになると思う。ご意見はあるか。

河西委員 施設の形状が変則的であるとあったが、その場合どういう制約があるのか。

事務局 館内の見通しが悪くなっている。そして、高層住宅との併設ということもあり、柱もかなり太くなっており、書架の配置等も非常に困難だったが、できるだけこの形状を生かした内装にする。

荘司委員 私は今、新図書館プロジェクトリーダー養成講座というものに関わらせていただいております、図書館と関わりたいという人が40人弱集まって、そこで、イベントとか情報発信とかを企画している。これから動くことになるが、皆さん本当に図書館と本が大好きな方ばかりである。私より、余程色々なことを知っていらっしゃる、一生懸命考えていらっしゃる。そういう方たちの思いについて、次回以降お伝えしていきたいと思っている。

金子委員 寺島図書館とあずま図書館が統合すると、距離的に利用が難しくなる方が出てきて、全体的に利用者が少なくなるという懸念がある。その辺の対応についても、これから考えていかなければならない。駅前の利便性もあるが、区全体の文化が下がるようなことになってはいけない。それと、私は緑図書館で子どものおはなし会に参加しているが、参加者が非常に多いという印象である。そこで一箇所の本を並べて見ていただくと、お母さんたちは必ず1,2冊手にとって持って行かれる。子どもの利用が少なくなっているという現状を考慮すると、そういう工夫も必要と考えている。

事務局 新しい図書館では、子どものスペースが独立したスペースとなっており、色々な事業展開ができると考えている。緑図書館についても、南部は子どもが増えているので、児童コーナーを広げたいと考えている。そして、PRを積極的にしていかないと利用は促進されない。固定された人たちが使っているということに

なると、図書館自体も進歩しないので、利用者層を広げる努力をしていきたいと考えている。

金子委員 3, 4か月健診などの場をかりて地道な活動を図書館が重ねているということも、この場をかりてご報告しておきたい。

河西委員 利用者数や貸出冊数等、数字で見て、増減によって一喜一憂するが、今度作られる新図書館は、そういう数では計れない部分がすごく大きな要素になってくると思う。なので、今のように、3, 4か月健診等でということはすごく大事なことではあるが、数字では見えない部分の効果、地域の皆さんにどのように使っていたかを考えるべき。今後はあまり数字にはこだわらないほうが良いと思っている。

金子委員 駅前という地の利を生かして、今まで全く図書館に無関心だった方が利用しやすくなるよう考えていく必要がある。

永田会長 そのためにも、PRをしっかりとやることが大事である。

永井委員 図書館も含めて、公の機関というのはそれぞれ組織の問題でやりにくいところはあると思うが、例えば、ボランティアセンターでは、障害者関係の方や私たちみたいな子ども関係等、様々なグループが登録をしている。ところが、実際に、それが図書館や他の施設と連携していることはほとんどない。それぞれが個別にやっているのが現状である。しかし、上手く活用できれば、図書館のスタッフが少なくなっても、ボランティアで楽しいイベントもできる。そういう、組織を離れての発想もしていただきたい。

事務局 今それを目指して、考えているところである。さきほど障害者サービスのところでも申し上げたが、福祉部門等との連携ができていない。そういう連携をとることは非常に重要であると考えている。ボランティアの方には引き続き協力していただきたいと思っており、こちらからも積極的に声をかけていきたい。それから、利用者の把握については、今は貸出者数でしか把握できないが、新しい図書館ができるのに伴って、全館にゲートを設置し、来館者の数を把握できるようになる。

西村委員 この新しい図書館の中にこども図書館があるが、私が小さい頃に使っていた図書館もこどもコーナーがあった。でも、それを使うのは3, 4年生までで、あとは6年生くらいになったら、普通に大人のコーナーのほうが面白かった。子ども図書館のくくりは小学生対象ということではなく、小学校高学年からはヤングアダルトで対応できるよう蔵書の工夫をされるとよいと思う。

事務局 今その考えに基づいてやっている。統合新図書館にはティーンズルームという部屋を設ける。

河西委員 ティーンズコーナーはこども図書館の中に入るのか。

事務局 こども図書館ではない部分に設ける。

永田会長 日本の公立図書館では総じて子どもサービスと障害者サービスは熱心に取り組まれている。この場でも、子どもに関係する人がたくさんいる。ただ、一般

に利用者が固定化して、今一つ利用者に広がりが出ない。今回、新しい図書館になって、駅のそばでたくさんの方が来られるチャンスができるわけで、そのときに、住民の心をつかむことが必要かと思う。そんなときに、いろいろとプランニングはされているかと思うが、例えばビジネス支援だとか、普通のサラリーマンが来られる図書館とか、そういう部分についてももう少し配慮すると良いと思う。それには、例えば有料オンラインデータベースの提供等もあるが、むしろ公共図書館でやっていただきたいのは、たくさん無料オンラインデータベースの提供である。そういうものが、実は図書館員が実情を把握していないため、利用者と結びつけてあげられていない。また、総合レファレンスカウンターによる案内というのがあるが、そのあたりの設計がもう少しきめ細やかにやっていただけると良いと思う。さらに、ここに機器等について書いてあるが、図書館で調べ物をする際にはPCを使う。そんなことをイメージしていただくと、利用者層も広がるのかと思う。

事務局 新しい図書館では、全席無線LANを使用可能としており、PCが無い方のためにも機器を用意している。また、有料オンラインデータベースも今でも10種類くらい用意しているが、使いやすいように、説明会も行おうと考えている。

永田会長 今ではタブレット型もあり、音も出ず、新聞なんかも読めるので、そういう工夫もされると良いと思う。

本日は時間がきたので、次回、この具体案等の課題をこちらのほうに投げかけていただいて、それについて、皆さんで議論を重ねていくことになると思う。

河西委員 次回の協議の参考として、人口に対する有職者の割合とか、その中で、自営なのか、会社勤めなのかとか、区民の構成に関する情報が必要ではないかと思う。たとえば、千葉県の浦安市がビジネス支援を始める際に、一番最初にやったのが、利用者の分析、マーケティングのようなことである。それがないと、どのようなターゲットにどのくらいの比重でサービスをするかという優先順位等も決められないと思うので、できれば、詳細な統計情報などがあればいただければと思う。

永田会長 では、先ほどの指標と今の部分について、事務局にお願いします。

#### 議事第4

その他 事務局からの連絡事項

事務局 次回の会議は平成24年9月、10月頃を予定している。

永田会長 本日の議事は全て終了した。これで平成24年度第1回墨田区図書館運営協議会を閉会する。